

2013 年度 第 1 回 鋼構造制振小委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 25 年 4 月 15 日(月) 14 時 00 分 ~ 16 時 00 分
- 2 . 場所** 建築会館
- 3 . 出席者** 緑川光正、笠井和彦、金子洋文、吉敷祥一(オブザーバー)、木村祥裕、聲高裕治、田中清、玉井宏章、松岡祐一、山下哲郎(敬称略)、宇佐美徹(記録)
欠席:石井正人、井上一朗、加村久哉、中込忠男、引野剛(敬称略)

4 . 配付資料

- 05-01 2012 年度 第 4 回 鋼構造制振小委員会 議事録(案)(宇佐美)
- 05-02 2012 年度 第 4 回 鋼構造運営委員会議事録(案)(緑川主査)
- 05-03 鋼構造制振小委員会 第 1 回査読会議事録(案)(玉井委員)
- 05-04 鋼構造制振設計指針に関するメモ(緑川主査)
- 05-05 鋼構造制振小委員会 第 2 回査読会議事録(案)(宇佐美)
- 05-06 1 章 書式について(聲高委員)
- 05-07 鋼構造制振設計指針目次(案)他(玉井委員)
- 05-08 9 章 応答指定型設計における必要ダンパー量(笠井委員)
- 05-09 9.3 節 応答指定型設計における必要ダンパー量の算定(笠井委員)
- 05-10 1 章 総則(笠井委員)

5 . 議事内容

- (1) 資料 05-01 に基づき前回議事録の確認がなされた。
- (2) 資料 05-02、05-04 に基づき、緑川主査より鋼構造運営委員会議事録が紹介され、講習会までのスケジュールの確認等を行った。
- ・ 査読スケジュールは以下の通り。
制振小委員会~4 月、鋼構造運営委員会 5~6 月、構造運営委員会 8~9 月
 - ・ 索引の作成は各章担当者が写植中に実施できるので構造委員会査読中に準備する。
(緑川主査)
- (3) 資料 05-03、05-05、05-7 に基づき、宇佐美より小委員会査読会の議事録を説明した。
- ・ 査読による修正箇所は以下の通り。

	内容
全体	<ul style="list-style-type: none">・ <u>既往の研究は節末に移動</u>・ <u>記号は巻末にする。各章での同一記号の複数定義や未定義は担当者が修正のこと</u>・ <u>シヤパネル、パネル系ダンパー等はせん断パネルに統一</u>・ <u>大地震 極稀な地震動</u>
1 章	<ul style="list-style-type: none">・ p.8 の最終センテンスを見直し

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1.3.1 の内容を各章担当者に確認
2 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ F14T を追加
3 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 損傷度評価方法等は 4 章に倣うこととする
4 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文にタイトルを入れない。4.2 を分割 ・ 4.2.3 軸力の配慮、4.2.4 歪速度の配慮にタイトル修正
5 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5.2.2、(6)、(7)は解説へ ・ 5.3.1、5.3.2 は(1)のみ本文とする ・ 5.3.3 は本文なし
6 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図、表の番号の修正と 6.3 節以降のタイトルの確認 ・ 6.1.2、6.2、6.2.1、6.2.2、6.2.3 は本文なし ・ 6.1.2 は履歴形状にタイトル変更 ・ 6.2.3 は歪速度の配慮にタイトル変更 ・ 表 C6.1 の向き確認 ・ 図 C6.1 はせん断パネルの荷重・・・(1995 JMA KOBE 地震動)にタイトル変更 ・ 図 C6.5 の縦軸の耐力 応力度 ・ 図 C6.6 は素材の応力・・・にタイトル変更。SLY LY。15%までの大歪領域であることの解説を追記 ・ 図 C6.7 はせん断パネルの荷重・・・にタイトルを変更、(a)LY100、(b)LY225 に、図中の試験体名は削除 ・ 図 C6.28 は垂直応力度とせん断応力度の対応にタイトル変更 ・ クーポン 引張試験片、地震波 地震動、ブレース系ダンパー 座屈補剛ブレース
7 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイトルのフォーマット修正 ・ 7.1 基本事項、7.1.1 適用、7.1.2 解析モデルの基本事項を追記 ・ 7.2.1、7.2.2、7.3 は本文なし ・ 7.4 は削除し、必要な内容は付録 5 に移動 ・ 多層骨組モデル 多層架構モデル、多層質点系モデル 多質点モデル
8 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/19 までに執筆完了のこと ・ 本章は本文なし ・ 8.1 基本事項、8.1.1 適用、8.1.2・・・を追記
9 章	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応答指定型設計における必要ダンパー量にタイトル変更 ・ 9.2.1、9.2.2 は本文なし
付 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ ……方法(案)にタイトル変更 ・ 参考文献を追加すること
付 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本章は本文なし ・ 鋼製ダンパー 鋼材ダンパー ・ 変位拘束材の記述は免震用なので削除
付 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付図 4.4.1 修正 ・ 付図 4.4.2 は SI 表記へ ・ パネ ばね、フォントサイズ修正のこと
付 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧付 5 モデル精度の影響は設計例に必要な事項を記述

<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 層モデルに(4)静的増分解析を追記 ・ 多質点モデルの結果を追記
--

- (4) 資料 05-06 に基づき、原稿フォーマットについて玉井委員より説明がなされた。
- ・ 付録の図番号、表番号、式番号は原則章通し(付 2 の場合、(A2.1)、図 A2.1、表 A2.1)。節がある場合は節通し(付 2.2 の場合、(A2.2.1)、図 A2.2.1、表 A2.2.1)。
 - ・ 参考文献は節の有無にかかわらず次の通り(付 2 の場合、1)、2)・・・、章末タイトル:付 2 参考文献)。
 - ・ 写植するのでギリシャ文字のフォントは自由とする。
- (5) 資料 05-08~05-10 に基づき、笠井委員より 1 章と 9 章の説明がなされた(一部議事は(3)参照)。
- ・ 1.3.1 保有性能評価に記述されている各章概要の部分は次の担当で確認のこと(2 章:松岡委員、3 章:聲高委員、4 章:玉井委員、5 章:木村委員、6 章:金子委員、7-9 章:笠井委員)

6 . 今後について

- ・ 索引は写植までに各担当で抽出する。
- ・ 1 章、2 章、5 章、6 章は小委員会・幹事団査読まで完了。
- ・ 3 章、4 章は損傷度評価方法について玉井委員と加村委員で調整のこと。
- ・ 9 章、付 3 は 4/19 までに査読のこと。
- ・ 付 1 は宇佐美委員から加村委員へ、付 4 は笠井委員から山崎委員へ修正を連絡のこと。
- ・ 7 章、8 章、付 5 は加筆修正と査読を進めること。
- ・ フォーマットも含め各自原稿を修正し、4/19AM までに Aipo にアップデートすること。
- ・ 4/19-20 の査読会で原稿が完成すれば、鋼構造運営委員会査読終了まで小委員会は開催しない。次回小委員会までの期間に運営委員会査読が終了する見込みなので、査読結果が出たら直ぐに原案作成担当者が査読への対応を準備し、次回小委員会で報告する。
- ・ 次回は 2013 年 7 月 29 日(月)、14:00 より建築会館で実施。